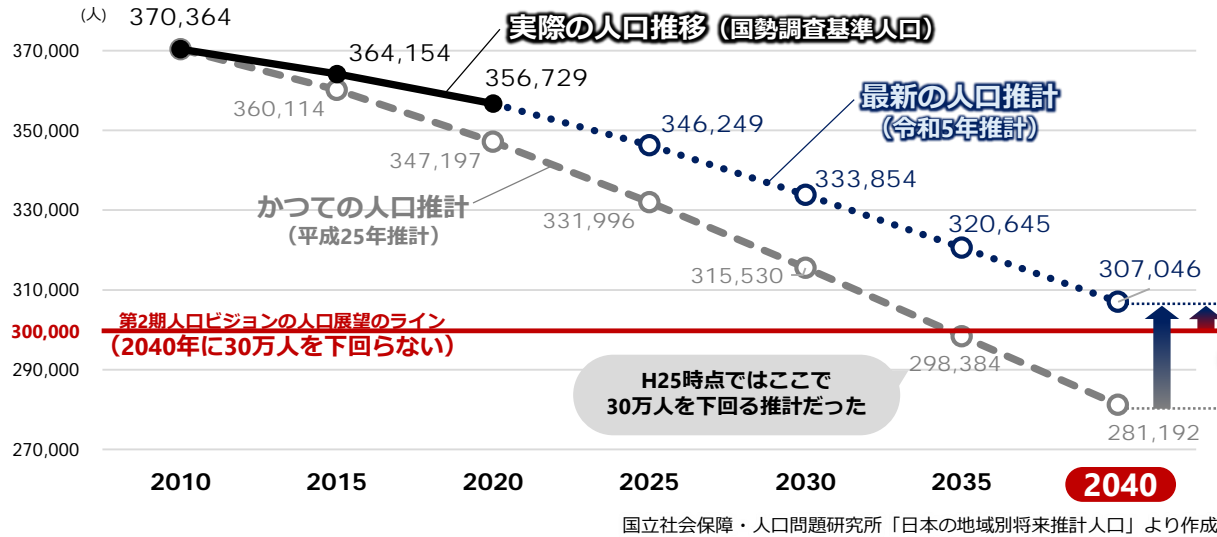


本市の現状について

市長公室 企画政策部 企画政策課

本市人口の将来推計

将来推計人口の推移

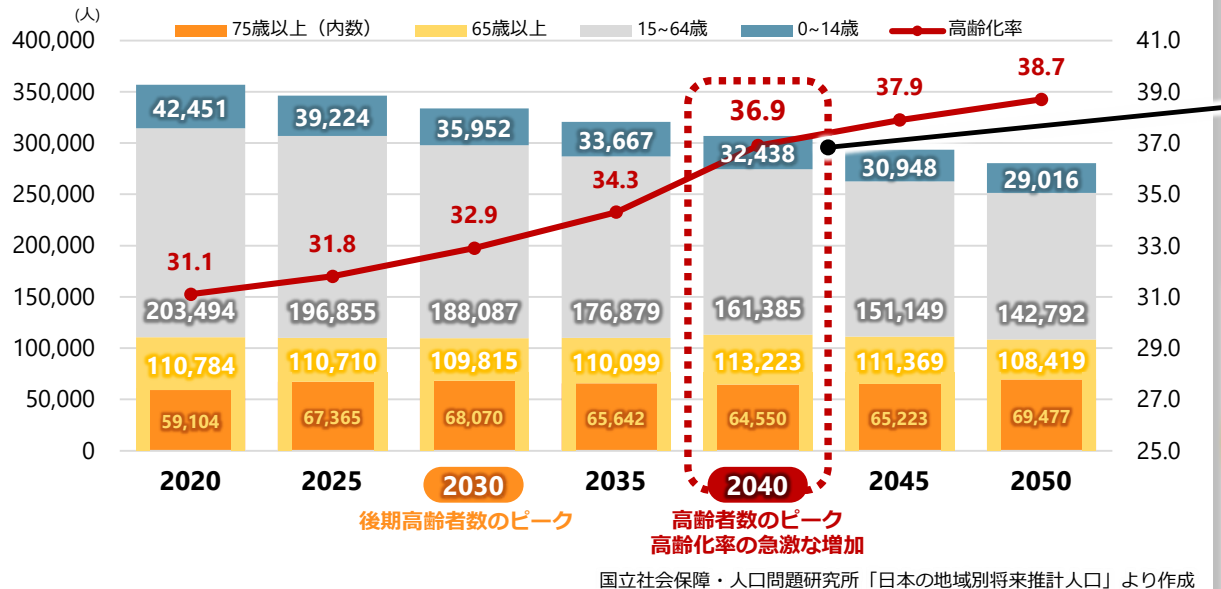


- 国立社会保障・人口問題研究所による平成25年時点での推計では、2040年には本市の人口は30万人を大きく下回る予測だった
- 状況改善に向け、第1期・第2期和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョンを策定し、地方創生の取組を進めてきた

これまでの地方創生の取組により、
2040年の人口推計が25,854人上振れ
第2期人口ビジョンにおける人口展望ラインを超える

一方で.....

将来推計人口 (年齢3区分) の推移



- 2040年においては、団塊ジュニア世代が65歳以上となることによる高齢化率の増加・生産年齢人口比率の減少といった人口構造の不均衡が予測される
- 1人の高齢者を1.4人の生産年齢人口で支える状態となっており、労働力不足や社会保障費の増大などの課題が懸念される

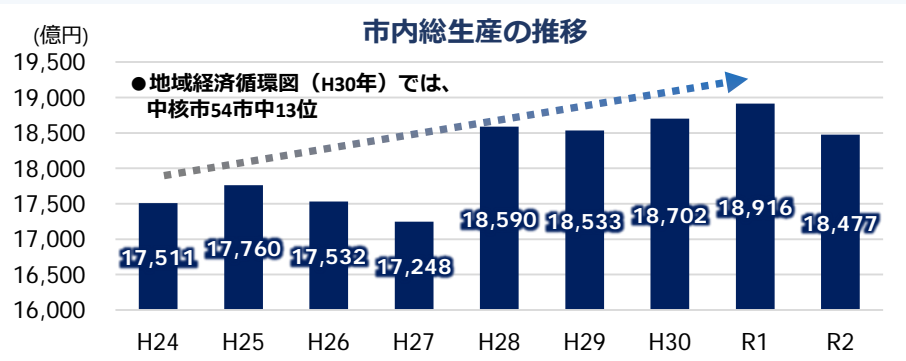
【課題】

将来の人口構造の不均衡を改善するための取組が必要

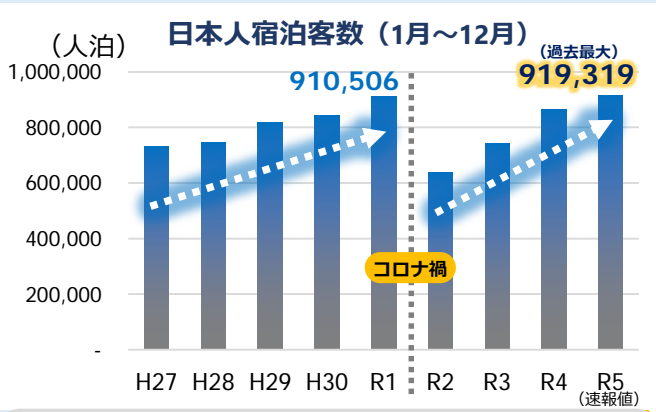
安定した雇用を生み出す産業が元気なまち - これまでの取組と成果

第1期・第2期和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生の取組の推進

安定した雇用を生み出す産業が元気なまち



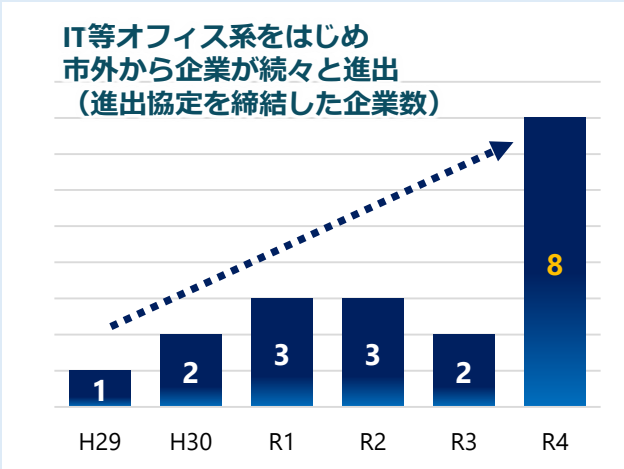
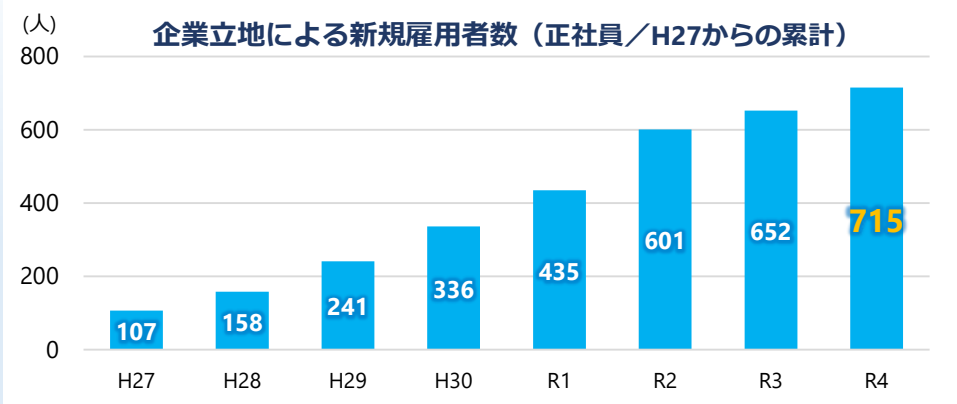
人口減少下においても市内総生産は増加傾向



R5年の日本人宿泊者数 (速報値) は過去最大を記録



稼げる観光・ツーリズムを推進

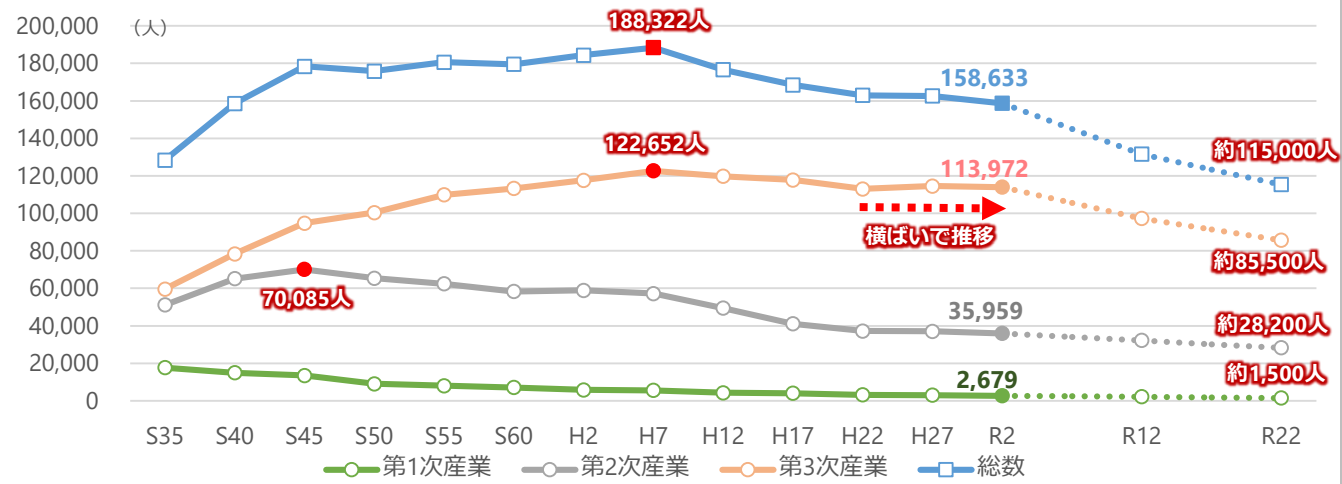


企業誘致によりIT等オフィス系企業が続々と進出

安定した雇用を生み出す産業が元気なまち - 現状と課題 ①

産業別の就業者数（和歌山市）

「国勢調査」及び「労働力需給推計」から市が推計



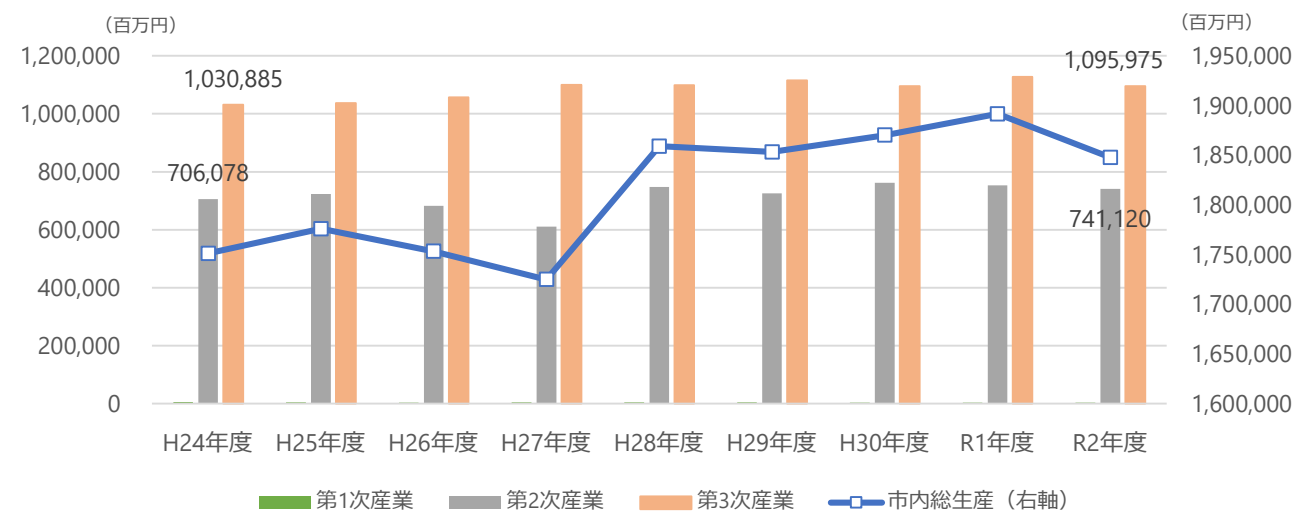
・就業者数の総数は、増加傾向であったが、H7年の188,322人をピークに減少傾向に転じる。

労働政策研究・研修機構「労働力需給推計」等に基づき推計を行ったところ、就業構造が現状から変わらなかった場合、R22年（2040年）には、約115,000人の就業者数となる見込み。

- ・第1次産業は減少傾向
- ・第2次産業は、S45年をピークに減少傾向に転じる
- ・第3次産業は、H7年をピークに減少傾向に転じたが、H22年以降は、ほぼ横ばいで推移

産業別の市内総生産（和歌山市）

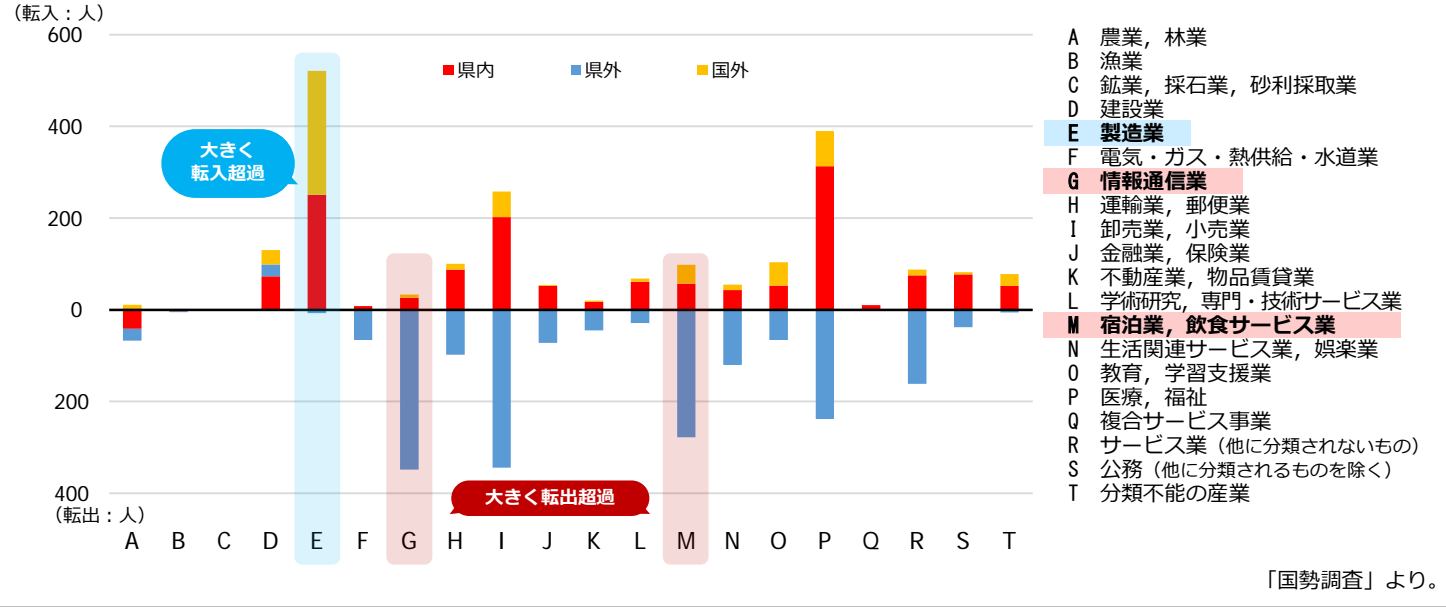
「市町村民経済計算」より。



【課題】
雇用の確保 及び
産業の持続的な発展の実現

安定した雇用を生み出す産業が元気なまち - 現状と課題 ②

産業別の転入出（和歌山市）（R2とH27の現住地比較）



若者が働きたい産業とは？

従業している産業によって、社会増減に差がある。

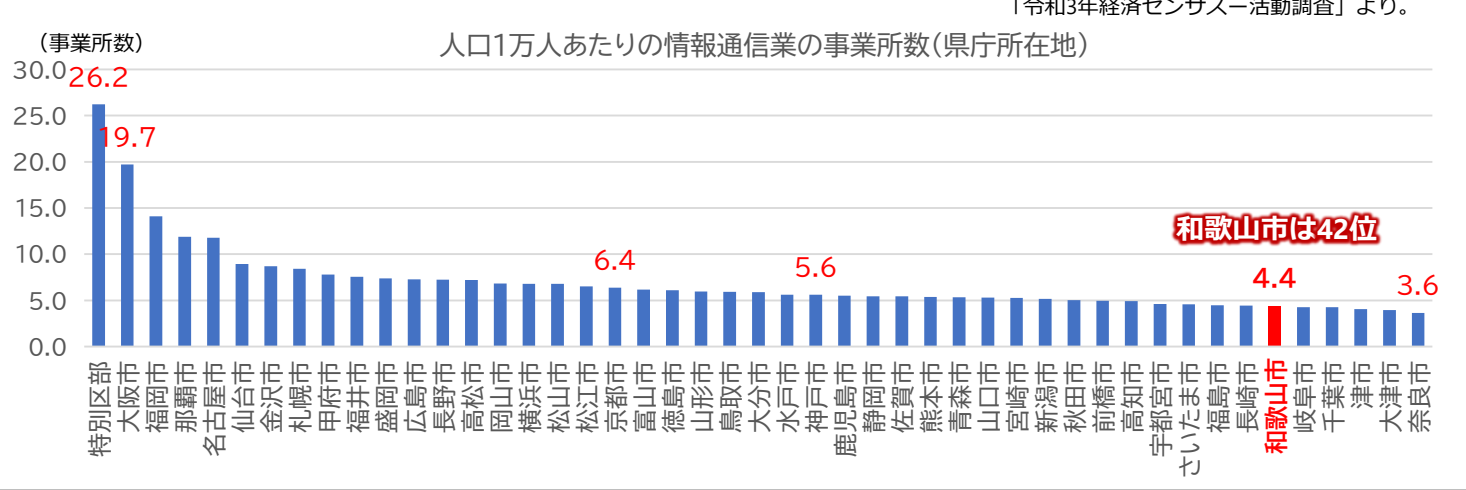
情報通信業は、大幅な社会減

マイナビの大学4年生へのアンケートでは、情報通信業に相当する「ソフトウェア・情報処理・ネット関連」が志望業界ランキング2位（参考）1位「食品、農林、水産」

一方で.....

情報通信業は、若者が働きたい産業だが、和歌山市には事業所数が少ない。

情報通信産業の事業所数



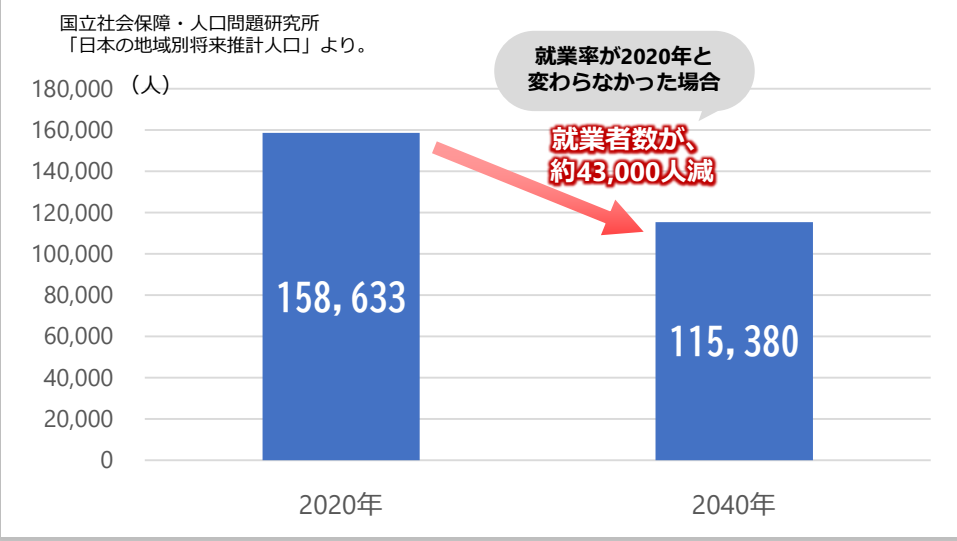
働きたいと思う産業と市内の産業にギャップあり。

【課題】

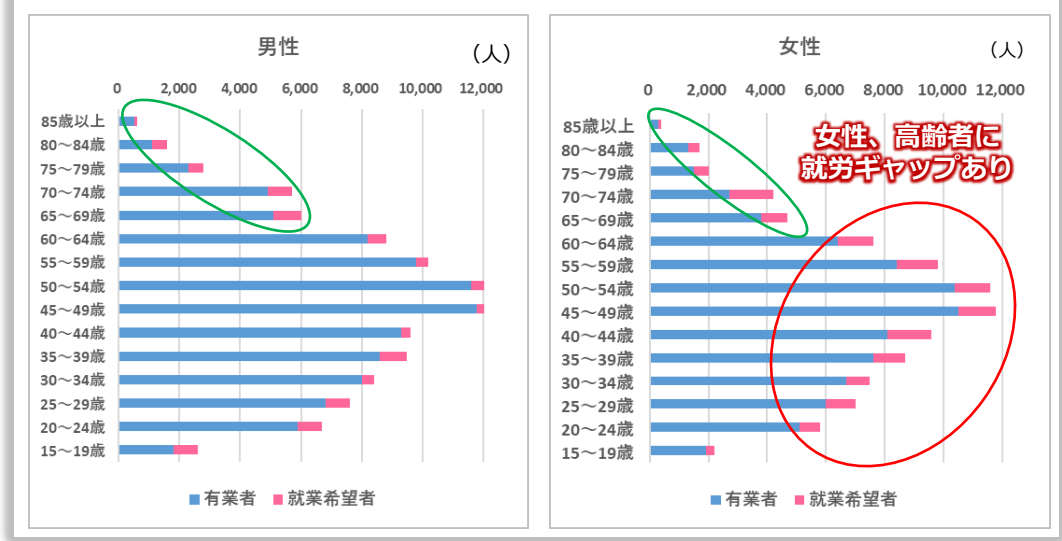
情報通信業などの若者が働きたい分野の産業を創出

安定した雇用を生み出す産業が元気なまち - 現状と課題 ③

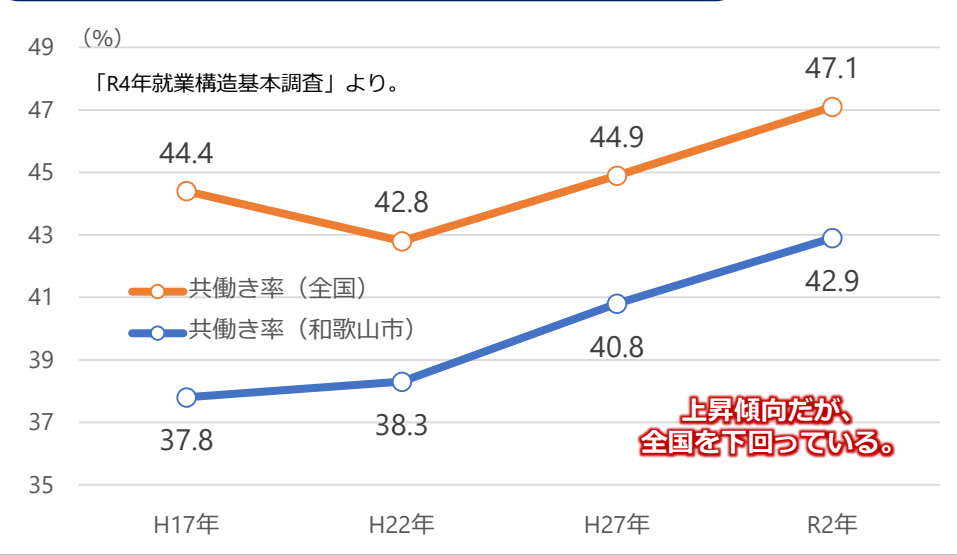
就業者数の将来推計（和歌山市）



就業希望者数、有業者数（和歌山市）



共働き率（全国、和歌山市）



2040年には生産年齢人口が減少することから、現状の就業構造のままでは、労働力不足のおそれあり。

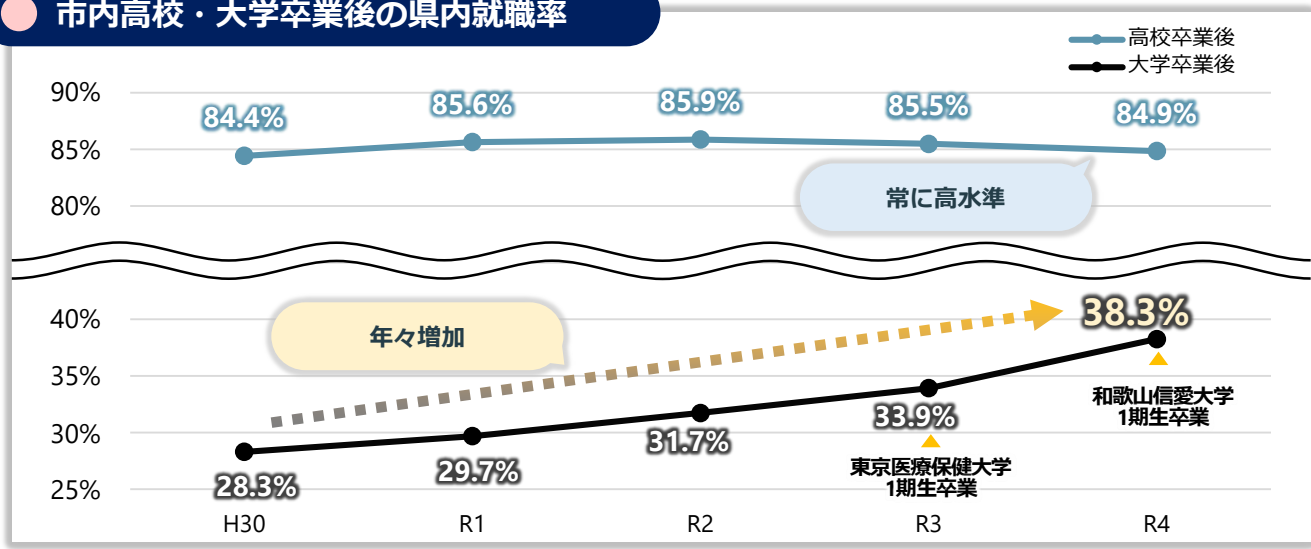
高齢者と女性は、就職希望者数に対し有業者が少なく、就労ギャップあり。具体的な課題のひとつとして、和歌山市の共働き率は全国を下回っている。

女性や働きたいと思う高齢者の雇用促進が必要

【課題】
人と企業のマッチング等による、女性や働きたいと思う高齢者の雇用促進

安定した雇用を生み出す産業が元気なまち - 現状と課題 ④

市内高校・大学卒業後の県内就職率

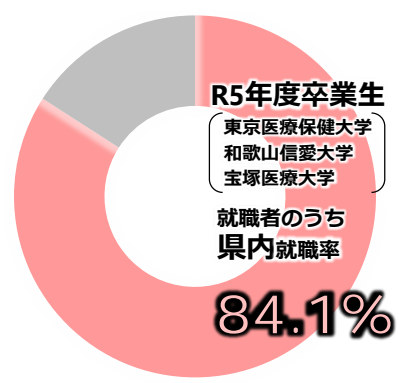


- 市内高校卒業後の県内就職率は、常に高水準で推移
- 大学卒業後の県内就職率は、増加傾向
- 和歌山県の新規大卒者の給与額は、上昇傾向にあり、大阪府を下回っているものの、差は縮小傾向

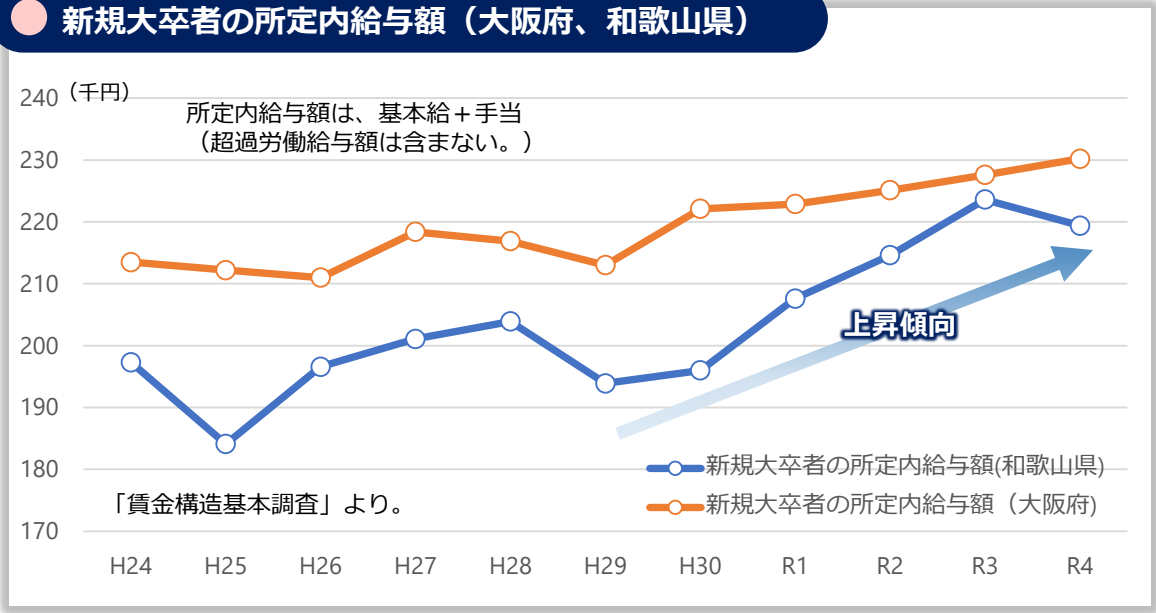
【課題】

- 大学誘致等、これまでの取組のさらなる推進と充実
- 卒業者の市内定住の促進

市内大学生の県内就職率

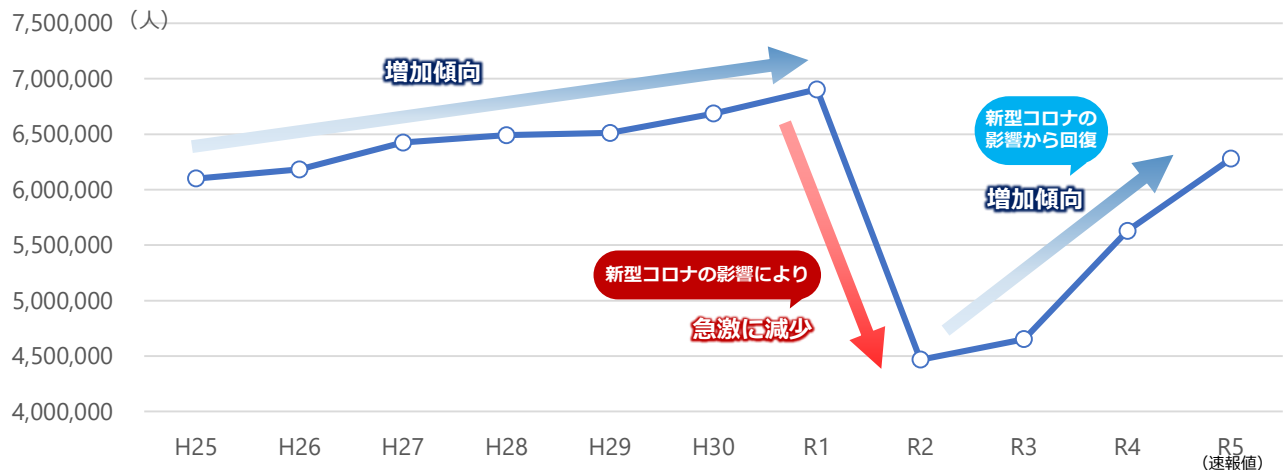


新規大卒者の所定内給与額 (大阪府、和歌山県)



安定した雇用を生み出す産業が元気なまち - 現状と課題 ⑤

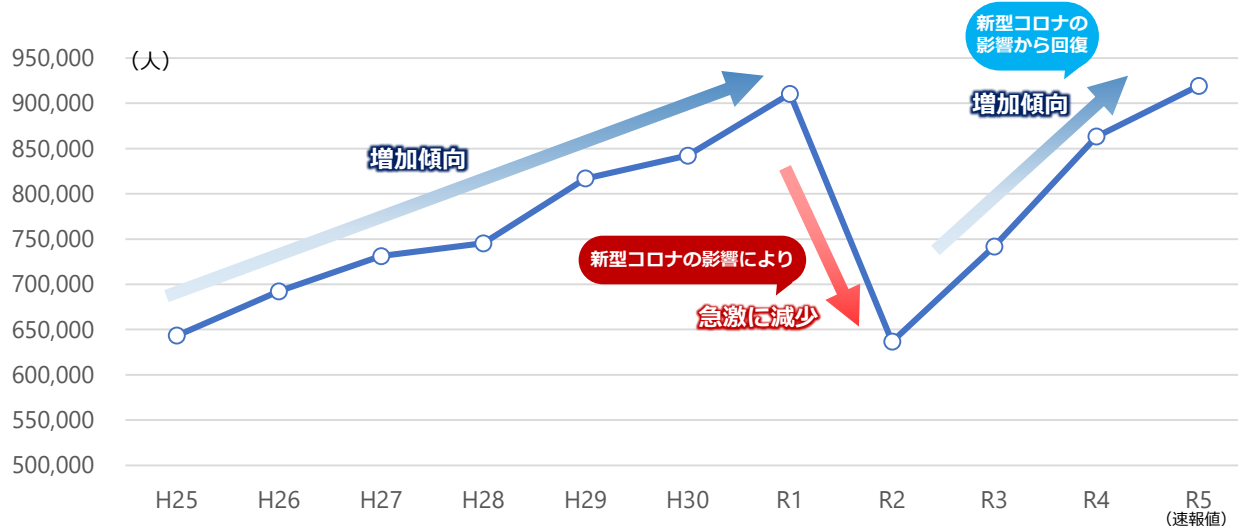
観光客入込数（和歌山市）



観光客入込数、日本人宿泊客数は、

- ・新型コロナの流行前のR1年までは、増加傾向にあった。
- ・新型コロナの影響によりR2年に大幅に減少。
- ・R2年以降は、再び増加傾向に転じる。特に日本人宿泊客数は、過去最大を記録。

日本人宿泊客数の推移（和歌山市）



新型コロナの影響下の1年間を除き、和歌山市の観光は増加傾向

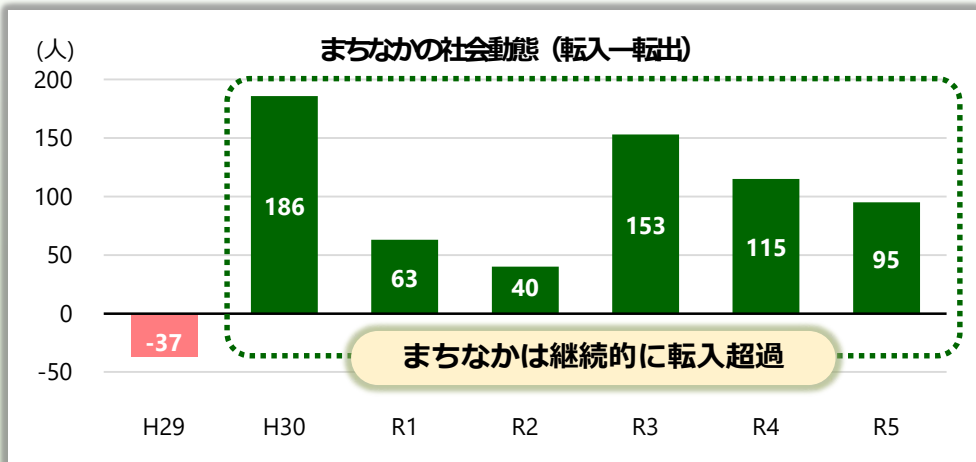
【課題】

観光客の増加等を観光消費の拡大や地域経済の活性化に結びつける、稼げる観光の推進

住みたいと選ばれる魅力があふれるまち - これまでの取組と成果

第1期・第2期和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生の取組の推進

住みたいと選ばれる魅力があふれるまち



出典：住民基本台帳



公共施設の耐震性を確保しつつ、まちなかに賑わい拠点を創出



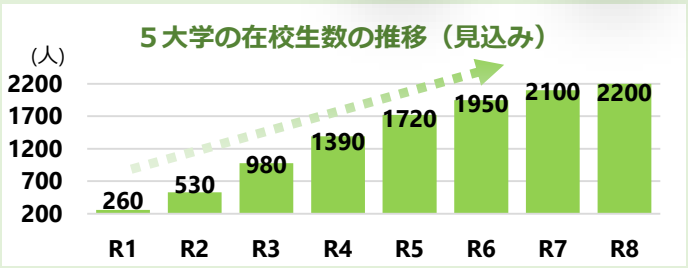
まちなかの民間投資も活発化



平成30年4月開学
① 東京医療保健大学
和歌山看護学部看護学科



平成31年4月開学
② 和歌山信愛大学
教育学部子ども教育学科



令和2年4月開学
③ 宝塚医療大学
和歌山保健医療学部
リハビリテーション学科
看護学科 (R4.4設置)



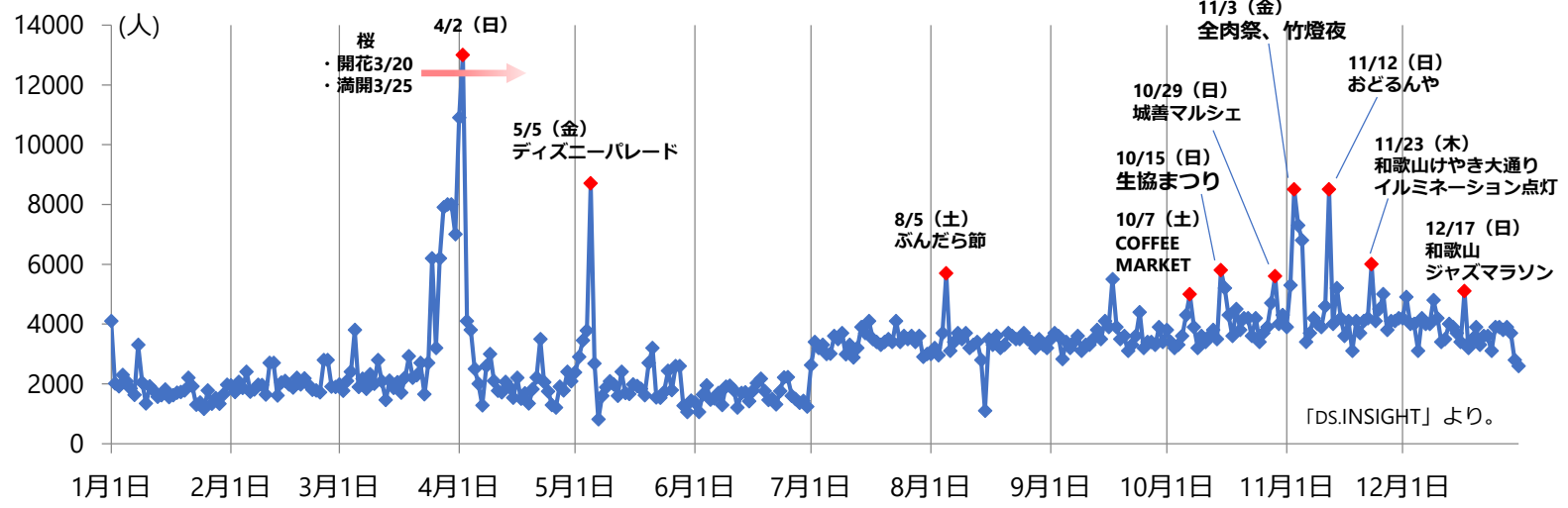
令和3年4月開学
④ 和歌山リハビリテーション
専門職大学
健康学部リハビリテーション学科



令和3年4月開学
⑤ 和歌山県立医科大学
薬学部
薬学部薬学科

住みたいと選ばれる魅力があふれるまち - 現状と課題 ①

和歌山城の人流



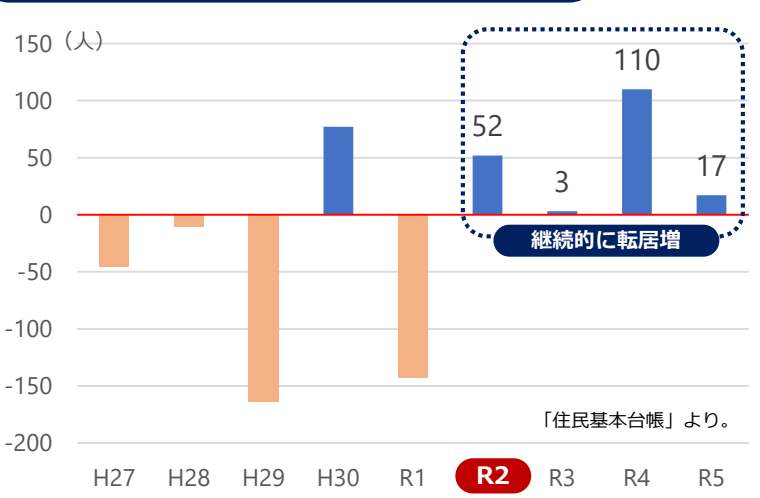
イベント開催時には、
人流増加

まちなかの魅力向上
+ 魅力にふれる機会UP

R2年以降、
まちなかへの市内転居は
継続的に転居増

和歌山市民から、
住みたいと選ばれはじめて
いる。

まちなかへの市内転居増減



まちなか居住人口の比率



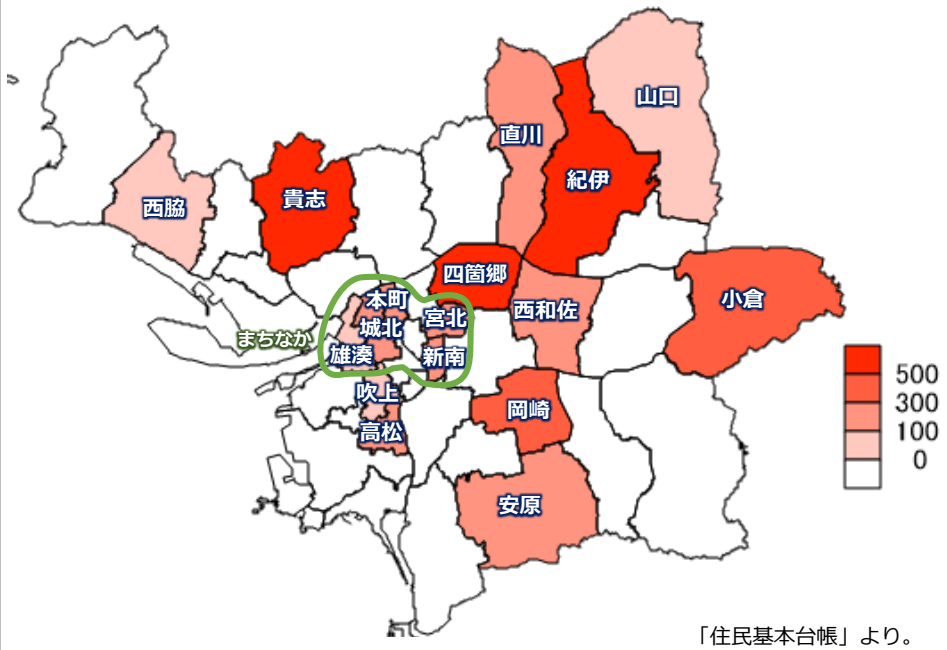
R2年以降、まちなか居住
人口の比率は改善傾向

拠点整備、イベント開催
の効果あり。
さらに次のステージへ。

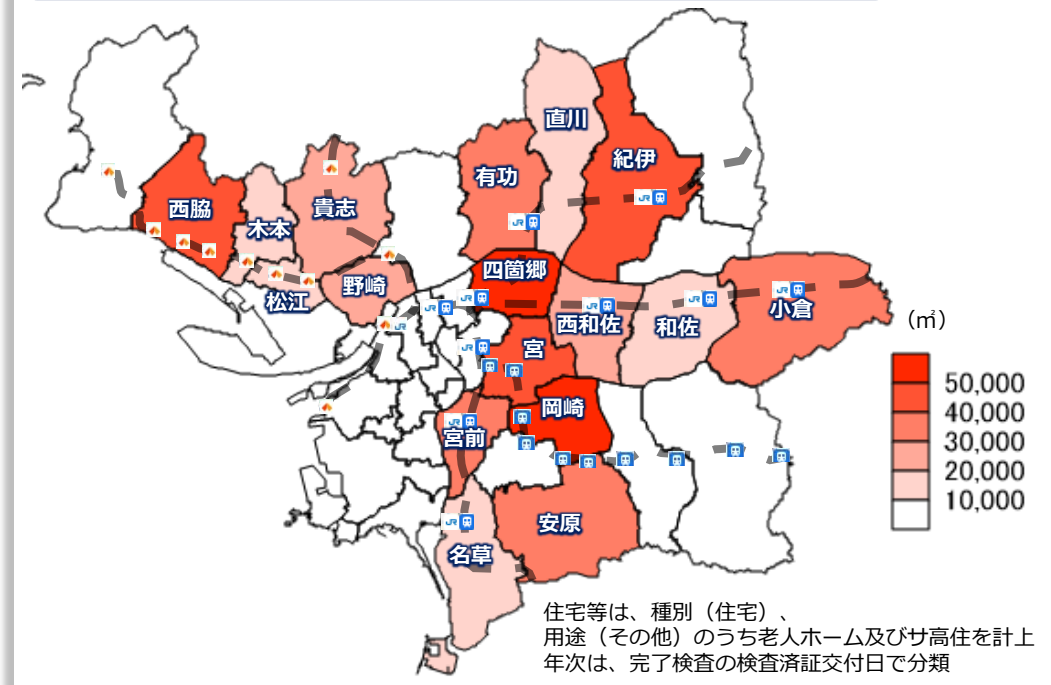
【課題】
まちなか全体の回遊性向上
等により、拠点間のシナジー
効果を高め、まちなかの更なる
魅力向上

住みたいと選ばれる魅力があふれるまち - 現状と課題 ②

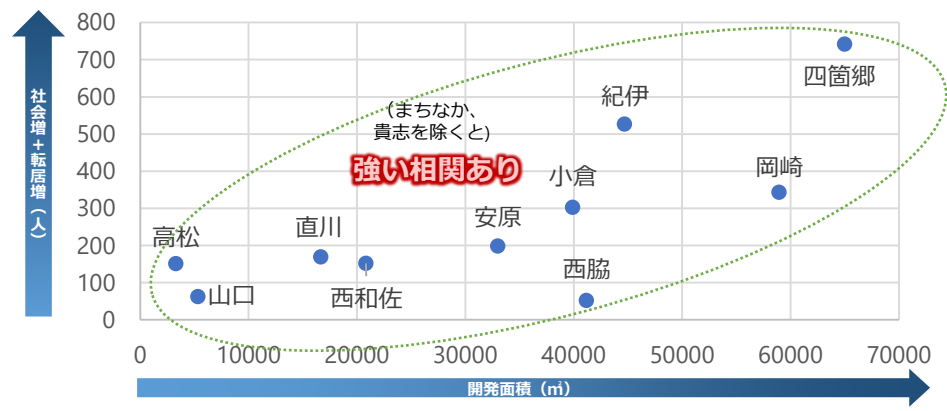
42地区の社会増減+転居増減 (H29~R5年)



地区別の住宅等の開発面積 (H29~R4年度)



「社会増+転居増」と開発面積の散布図



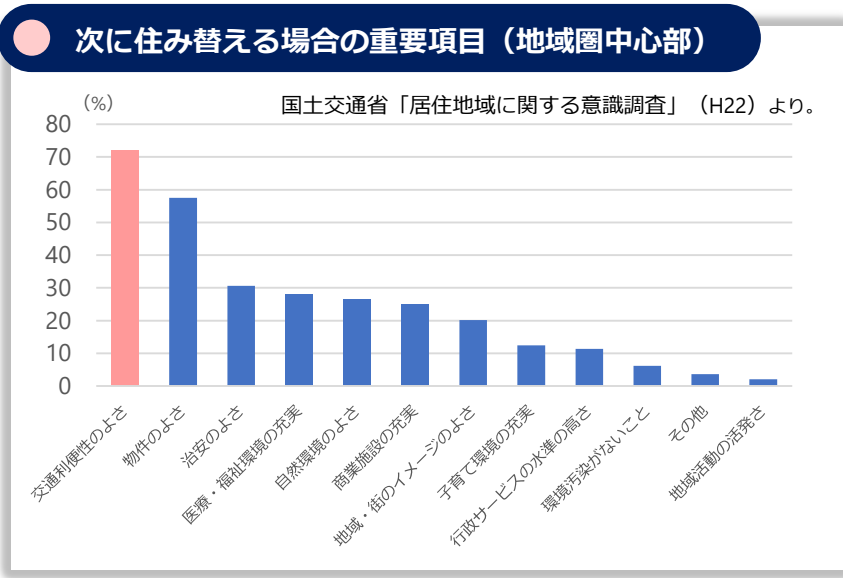
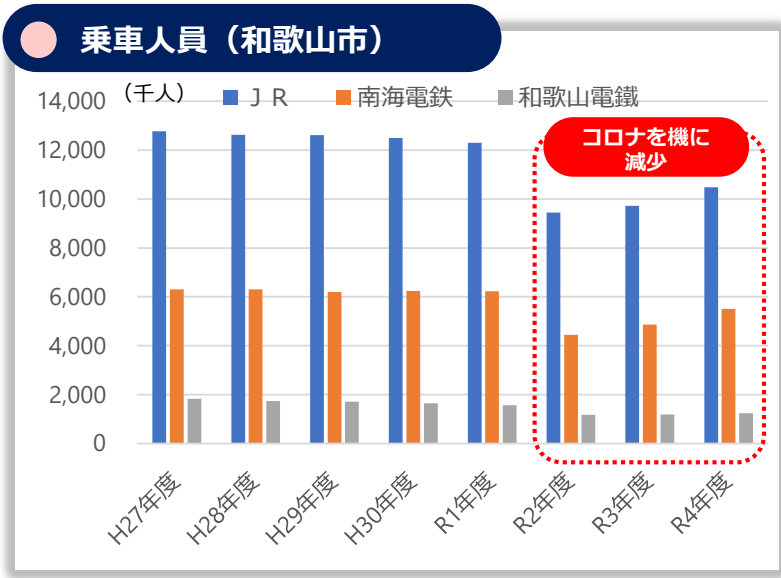
住宅等の開発面積が大きい地区は、転入、転居により人口増の傾向あり

人口増加には、住宅の供給が必要

住宅等の開発面積が大きい地区に、周辺居住者の生活の拠点の駅が存在

【課題】 居住誘導区域における居住空間の創出

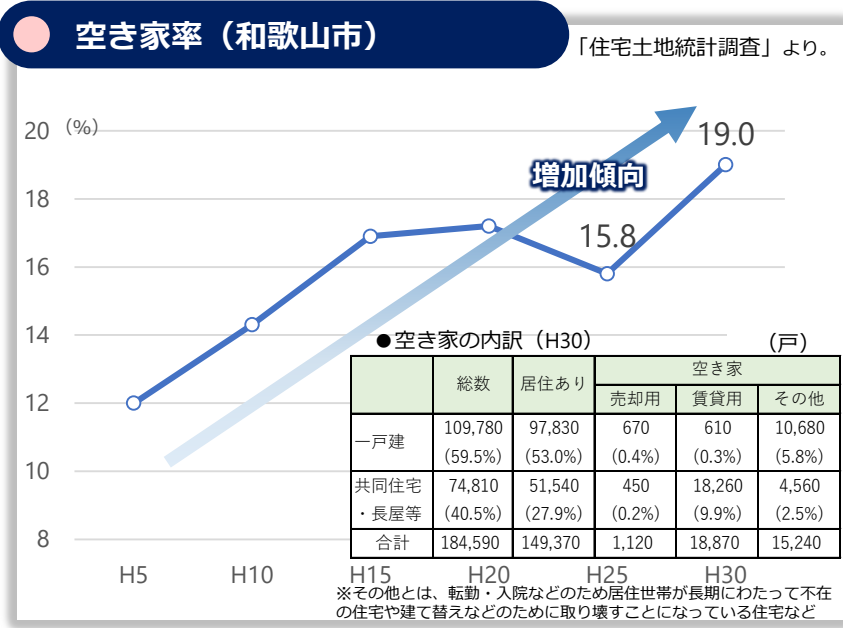
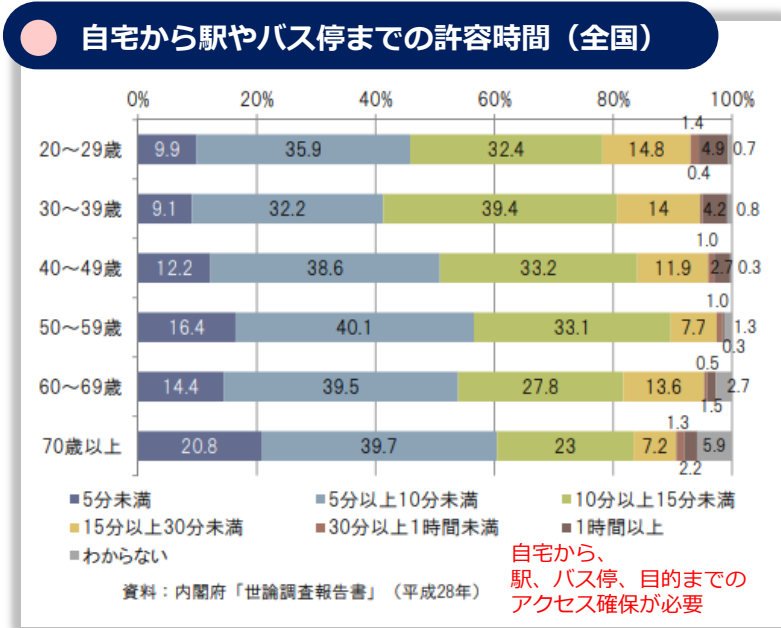
住みたいと選ばれる魅力があふれるまち - 現状と課題 ③



新型コロナを機に、
鉄道の乗車人員は減少

交通利便性のよさは、
転居する際の重要項目

約半数が、駅やバス停
までの許容時間は10分
未満



【課題】

- ・鉄道路線など地域公共交通の維持に向けた取組を通じ、持続可能な交通の実現
- ・地域バスへの支援や新たなモビリティ等の活用

空き家率は増加傾向
（特にH25年から
H30年に3.2ポイント
上昇）

【課題】

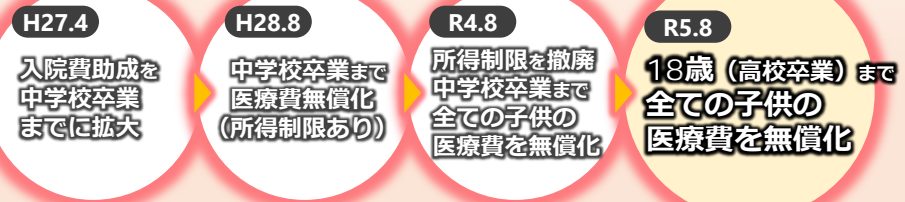
空き家を活用した
移住促進

子供たちがいきいきと育つまち - これまでの取組と成果

第1期・第2期和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生の取組の推進

子供たちがいきいきと育つまち

こども医療費の無償化を拡充し
子育て世帯の経済的負担を軽減



安全・安心な教育環境の整備を推進

学校空調の設置

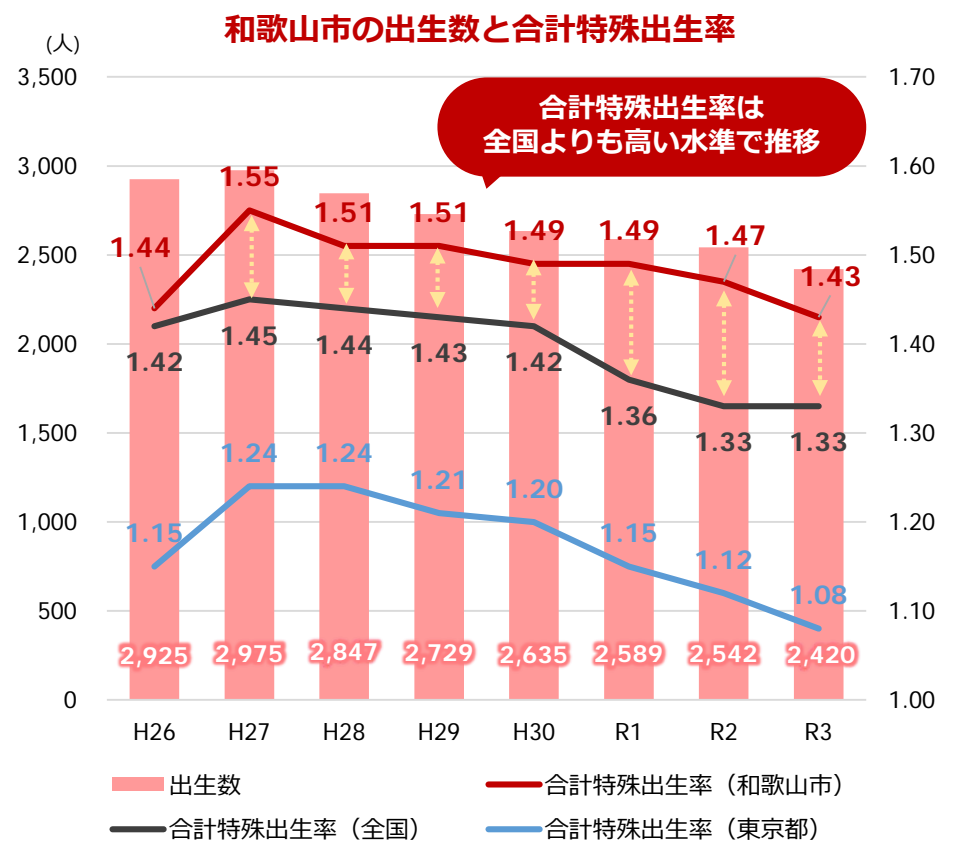
全小中学校の普通教室や
理科室等必要な特別教室に設置完了

H26年度	0%
R1年度	100%

トイレの洋式化

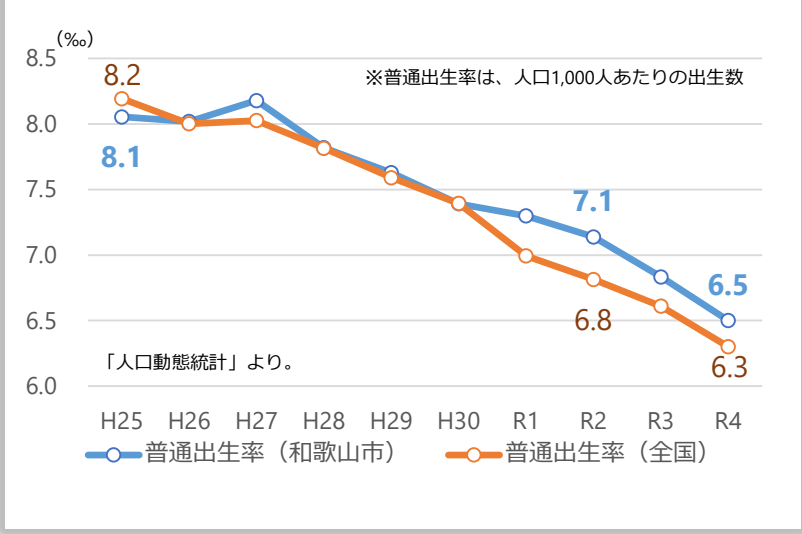
全小中学校の第1系統(各階1か所)に
洋式トイレの設置が完了
現在、第2系統完了に向け整備中

H26年度	
小学校	23.1%
中学校	23.3%
R4	
小学校	72.4%
中学校	61.5%

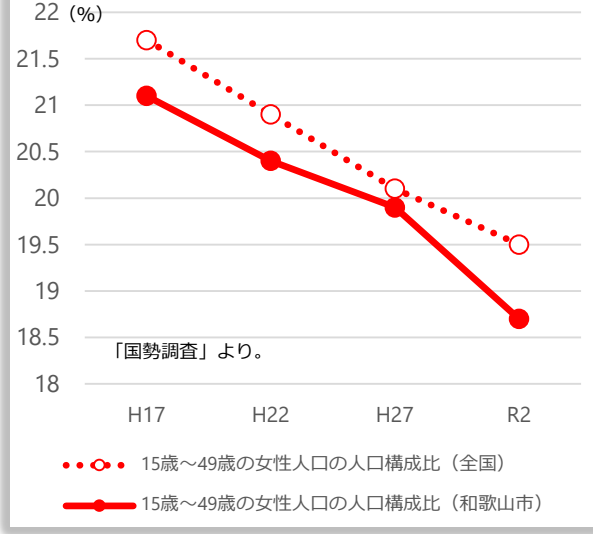


子供たちがいきいきと育つまち - 現状と課題 ①

普通出生率の推移 (全国、和歌山市)



15歳～49歳等の女性人口の人口構成比 (全国、和歌山市)



総人口1,000人あたりの出生数である普通出生率は、和歌山市が全国を上回っている。

普通出生率を、以下の要因に再構成

$$\frac{\text{各5階級の女性人口}}{\text{総人口}} \times \frac{\text{各5階級の有配偶女性人口}}{\text{各5階級の女性人口}} \times \frac{\text{各5階級の女性の出生数}}{\text{各5階級の有配偶女性人口}}$$

人口構成比 × 有配偶率 × 有配偶女性出生率

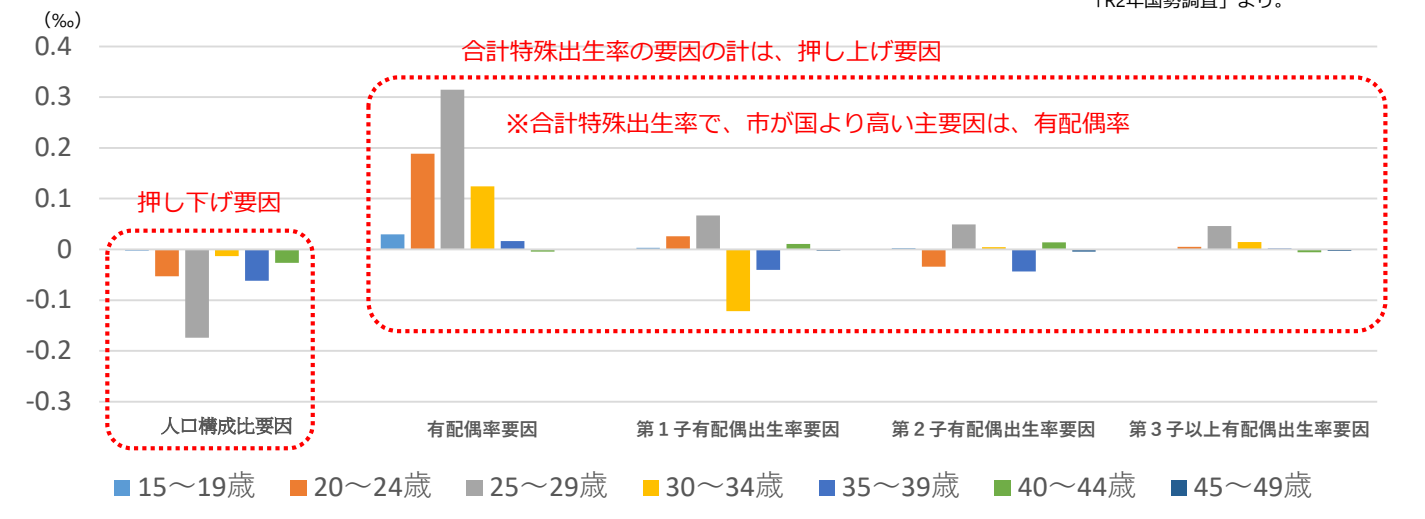
合計特殊出生率にはない要因 × 合計特殊出生率の要因

要因別に全国と和歌山市を比較すると、

- ・合計特殊出生率（特に有配偶率）は押し上げ要因
- ・15歳～49歳の女性人口の人口構成比が押し下げ要因

出生数を増やすには、合計特殊出生率の上昇のみではなく、子育て世代の定着及び転入促進が必要

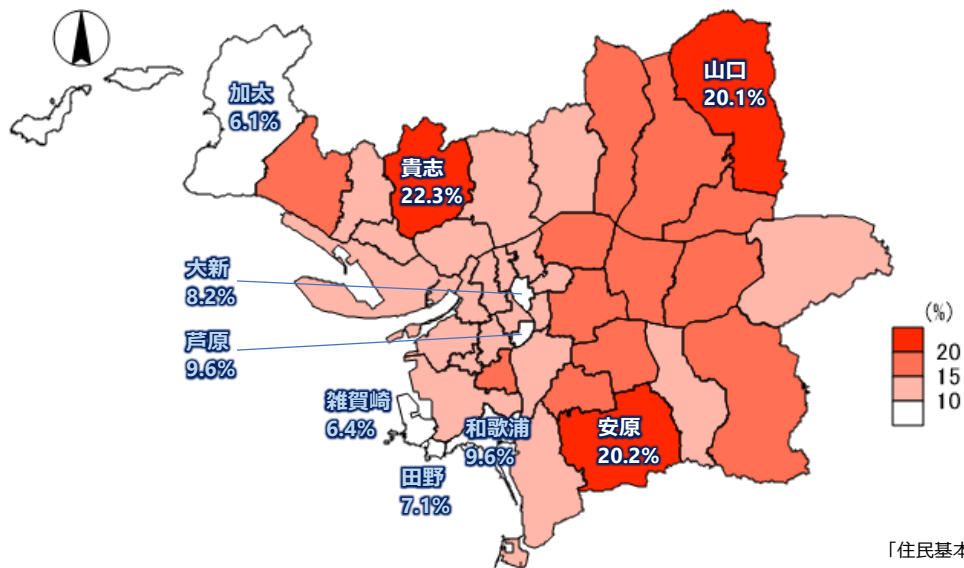
普通出生率の要因分析(和歌山市-全国)



【課題】
子育て世代の定着及び流入促進

子供たちがいきいきと育つまち - 現状と課題 ②

42地区別の児童人口（0～18歳）人口構成比（和歌山市）



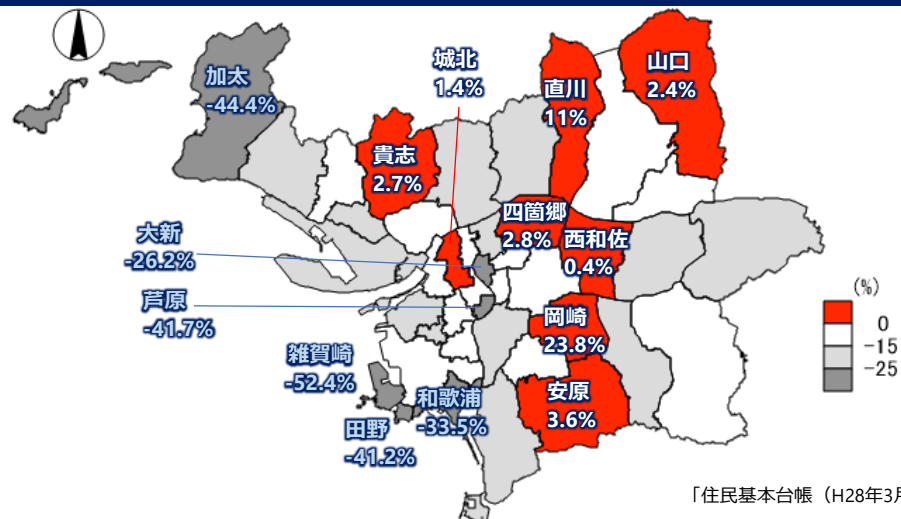
全年齢の人口に占める児童人口（0～18歳）の割合を、42地区別にみると、

- ・ 貴志、山口、安原は20%以上の高い割合
 - ・ 大新、芦原、加太、雑賀崎、田野、和歌浦は10%未満と低い割合
- なお、市の平均は15%

児童人口（0～18歳）の割合の低い大新、芦原、加太、雑賀崎、田野、和歌浦は、児童人口（0～18歳）の減少率も高い。

今後、同等の減少率で推移すると、構成比はさらに低下。

42地区別の児童人口（0～18歳）の増減率（和歌山市）



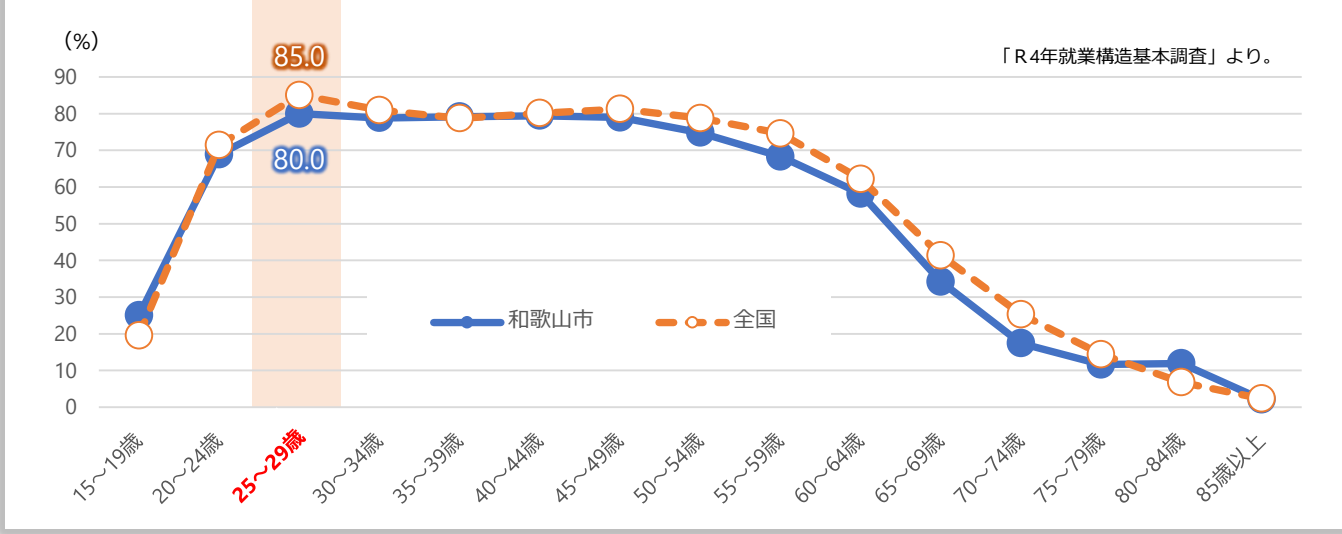
児童人口（0～18歳）の構成比には地域差があり、構成比が低い地区では、地域コミュニティの維持が難しくなるおそれあり。

【課題】

小規模校のメリットや地域性を生かした特色ある学校づくりの推進

子供たちがいきいきと育つまち - 現状と課題 ③

女性の有業率 (全国、和歌山市)

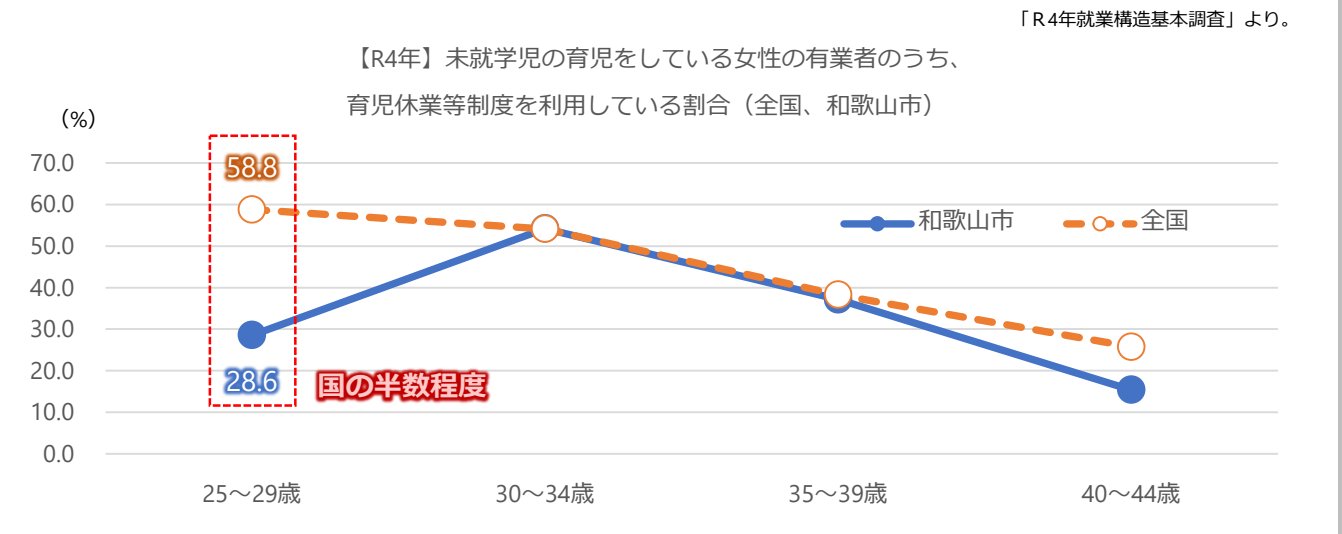


女性の有業率は、特に**25歳~29歳**で全国を下回っている。

原因のひとつは

未就学児の育児をしている有業者のうち、**25歳~29歳の女性**は、全国と比較し、**育児休業等制度を利用できていない。**

育児休業等制度の利用率 (全国、和歌山市)



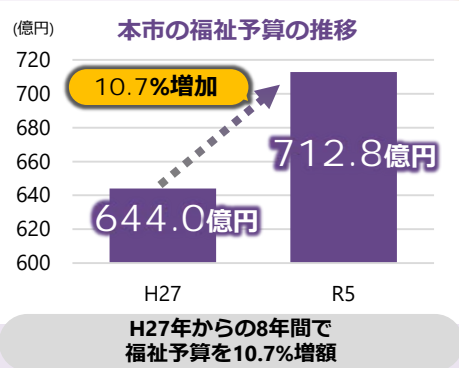
育児を理由とした離職により、**25歳~29歳の有業率が低下している可能性あり。**

【課題】
子育てしやすい職場環境の支援、
保育環境の充実が必要

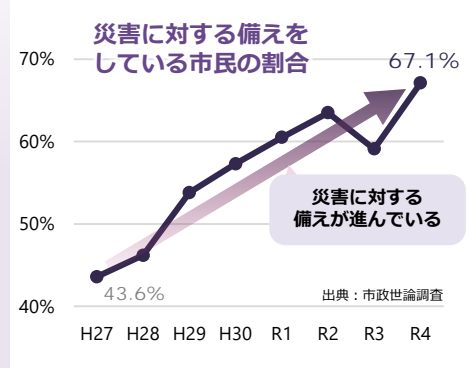
誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち - これまでの取組と成果

第1期・第2期和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生の取組の推進

誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち



高齢者・障害者支援や子育てなど福祉に係る予算を増額



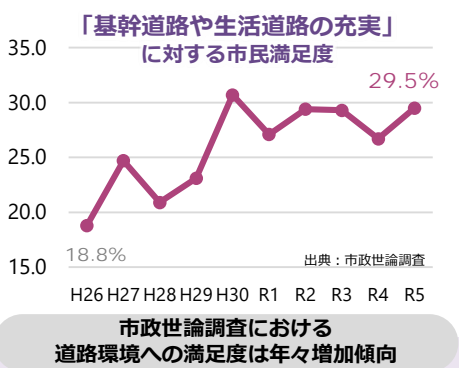
災害に強いまちづくり・事前の備えを強化



住宅の耐震診断・耐震化の自己負担費用を軽減



防災ラジオを貸与

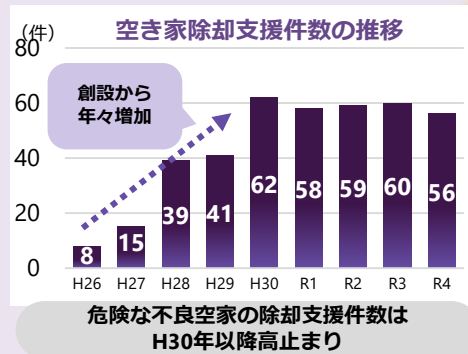


日常的に利用される生活関連道路などの整備を重点化

R4 ▶ R5 市単独の道路保全予算を1.8億円(20%)増



道路が狭く歩行者と車が混在し危険な状況



空き家対策・空き家活用を推進



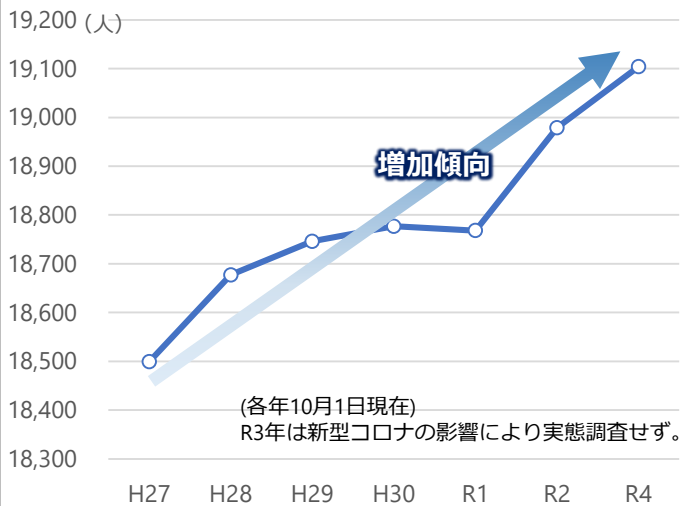
空き家を活用した地域活動拠点の整備を支援



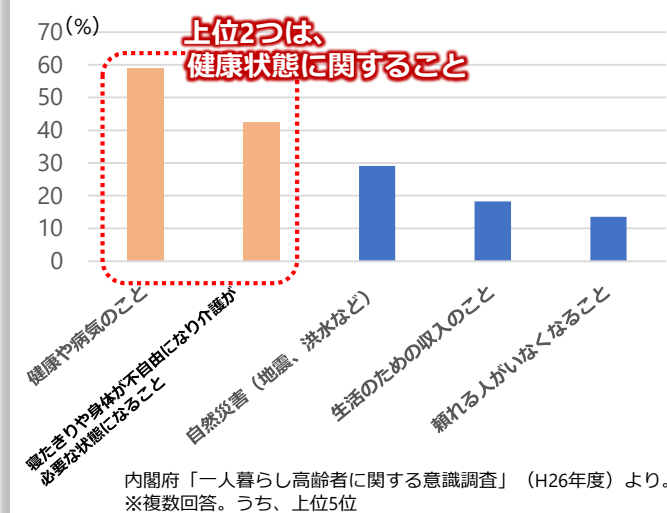
まちなか空き家の学生シェアハウス化を支援

誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち – 課題と現状 ①

ひとり暮らし高齢者（和歌山市）



ひとり暮らし高齢者の日常生活の不安（全国）



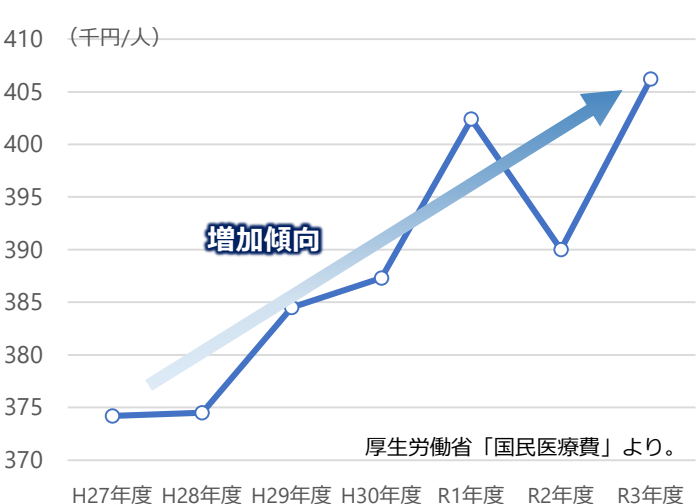
健康寿命（全国、和歌山県、和歌山市）

(歳)

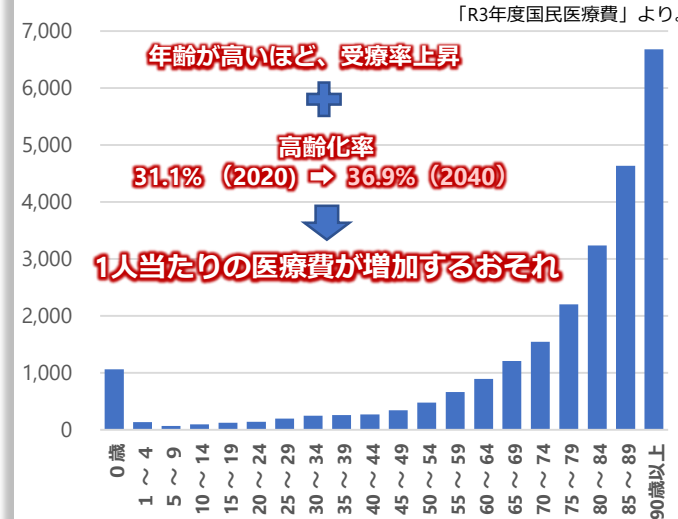
		H27年度	R2年度
男性	国	79.27	80.09
	和歌山県	78.34	79.61
	和歌山市	78.14	79.51
女性	国	83.73	84.41
	和歌山県	82.97	84.08
	和歌山市	82.48	83.86

和歌山県「県内市町村の健康寿命について」より。

人口1人当たり国民医療費（和歌山県）



年齢別の受療率（人口10万対）（全国）



和歌山市のひとり暮らし高齢者は、増加傾向

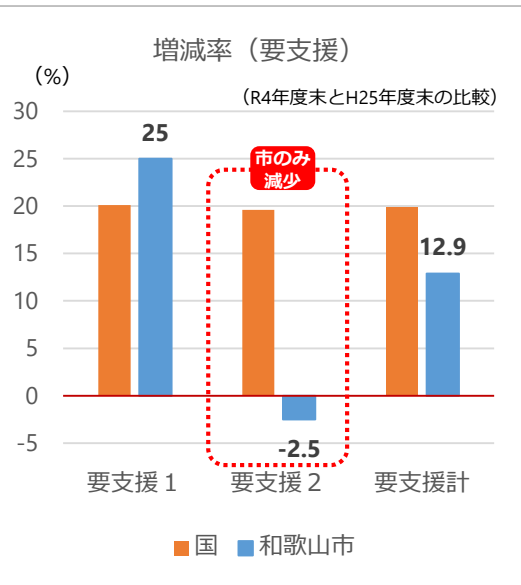
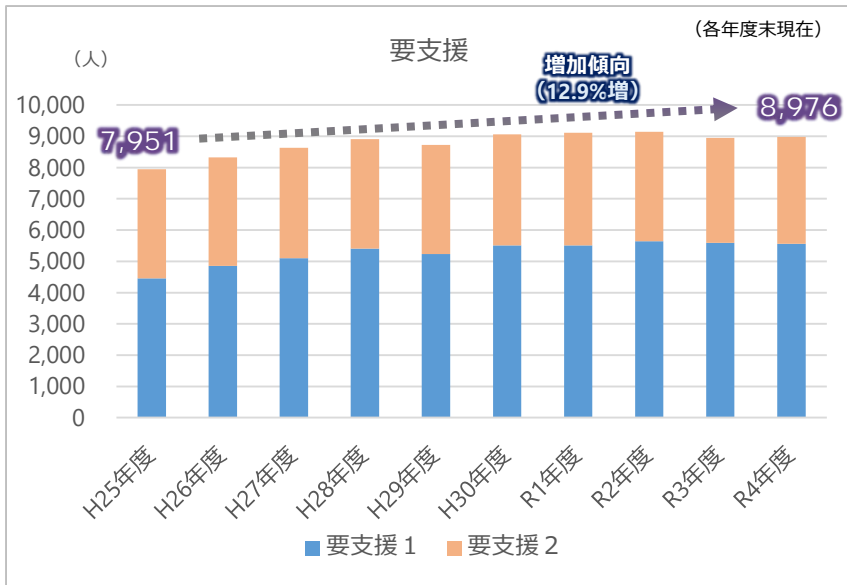
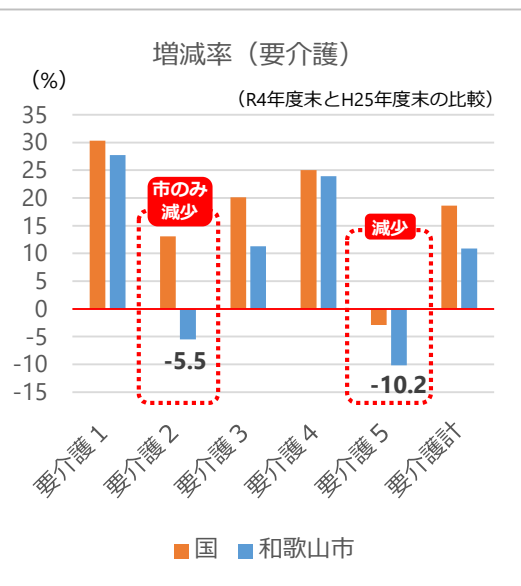
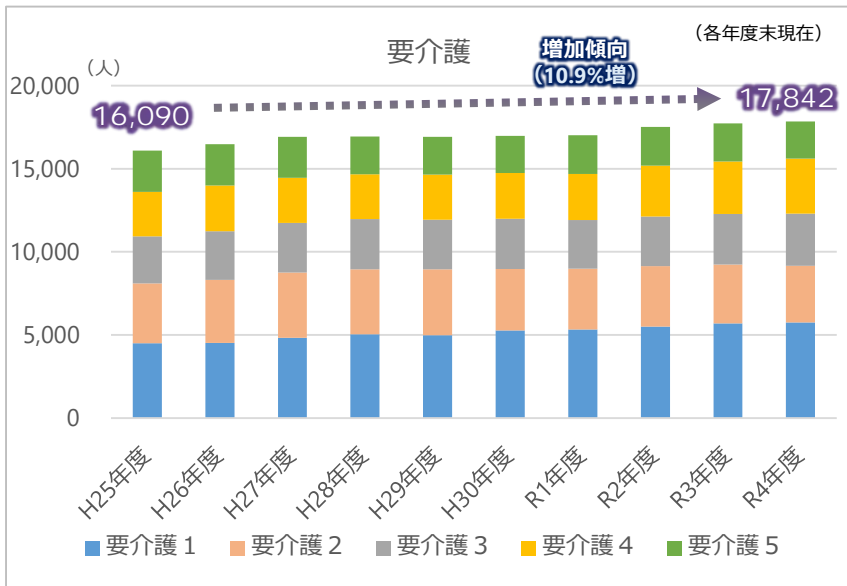
ひとり暮らし高齢者は、健康状態に対し、最も不安を感じている。

和歌山市の健康寿命は、国や県より、やや低い。
(健康寿命は医療費にも関係あり)

【課題】
高齢者の健康寿命の延伸

誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち - 課題と現状 ②

要介護（要支援）認定者数（和歌山市）



要介護認定者数は増加傾向。H25年度末からR4年度末にかけて、10.9%増加
 なお、国は同期間で18.6%増加で、和歌山市は国を下回っている。
 最も重度の介護状態である要介護5は、和歌山市、国ともに減少

要支援認定者数は、増加傾向。H25年度末からR4年度末にかけて、12.9%増加
 なお、国は同期間で19.9%増加で、和歌山市の増加率は国を下回っている。
 要支援2は、国は増加しているが、和歌山市は減少

【課題】
保健事業と介護予防の
一体的実施の推進